

相談部だより



栃木県立わかさ特別支援学校
R7.10 発行

令和7(2025)年度 相談部 前半の取組について紹介します。

肢体不自由児教育担当者連絡会 開催

6月20日(金)に本校を会場として、市内の肢体不自由児教育に携わる教員や関係機関等職員が集まり、子どもたちの学びや生活に関する情報共有や意見交換等を行いました。この連絡会は、毎年実施されており、本校とのざわ特別支援学校が交互に事務局を担当しています。今年度は本校が事務局となり、当日は全体会において担当者の後継育成や引継ぎについて、また医療的ケアを必要とする子どもたちの学びの場について情報共有を行いました。後半のグループ別協議では、就学前グループと学校教育グループとに分かれ、卒園(卒業)後のフォロー体制や学校と関係機関との連携の在り方について話し合われました。



また会場では、本校の教員自作の教材教具を展示したり、本校が位置する健康の森内の関係機関の紹介や研修会の案内を行ったりするなど、情報発信の場ともなりました。

これからも関係職員が一堂に会して肢体不自由を伴う子どもたちのより良い学びや生活について話し合う、このような機会を大切に、事務局校として「人」や「情報」をつなぐ役割を担っていかれたらと思います。

こども発達支援センターとの連携



7月22日(火)に、本校相談部職員とこども発達支援センター職員合同で研修会を実施しました。昨年度、相談部職員がこども発達支援センターにおいて療育体験をさせていただいたことから、今年度は、こども発達支援センター職員の皆さんに本校にお越しいただき、互いの取組について情報交換を行いました。本校からは、子どもたちと授業の中で行っている体操や感覚遊具を使っの活動紹介を行い、こども発達支援センター職員の方からは、親子通園の中で行っている手遊び歌等を紹介していただきました。

これからも両職員間の意見交換を丁寧に行いながら、更なる相互理解及び連携を深めていかれたらと考えております。

夏季研修会

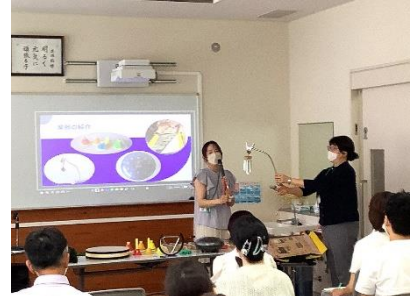
本校では毎年、「センター的機能」の一環として、小・中学校等(幼稚園等や高等学校も含む)の教員を対象とした特別支援教育に関する研修を実施しています。今年度は、8月6日(水)に本校を会場として、講演やワークショップなどを行いました。学校種を超えた多くの先生方に御参加いただきました。

研修1「本校における音楽の取組について」

本校職員が講師を務め、音楽の授業を行っていく上で大切にしていることとして、児童生徒の実態把握や学習指導要領及び学校目標などについて触れながら、子どもも教員も音楽を「楽しい」と感じる気持ちが何よりも大切と話し、参加していた先生方からは賛同する声が多く聞かれました。

また講話の中では、授業の中で使用している楽器やスイッチ教材、iPadやタブレットのアプリなどの紹介も行われました。

最後にまとめとして、ICT教材や楽器を活用していくことで、子どもの動きや感性を生かした音楽の授業となり、授業を通して子どもの心や生活自体が豊かになることを目指していると話し、講話は終了となりました。



研修の後半には、スチール缶を使った簡単な楽器作りや先生方同士の情報共有の時間を設定しました。「音楽」という授業について様々な視点から多くの先生方と一緒に考えることができた貴重な時間となりました。

研修2「身体障害児に係る制度と補装具について」

栃木県障害者総合相談所の株木めぐみ氏を講師に迎え、補装具の種目から補装具費支給の仕組み、福祉用具の制度に至るまで丁寧にお話いただきました。

講話の中では実際に、参加された先生方が姿勢保持装置に乗ったり下肢装具などを身に着けたりする時間も設けられ、参加された先生方からは、「貴重な体験となった。」「点検や手入れの大切さを感じた。」との声が聞かれました。

また当日は、本校及び健康の森関係機関の取組を外部の先生方に知っていただく貴重な機会と考え、本校のセンター的機能や健康の森関係機関の紹介やパンフレットの配布、本校教員自作の教材教具展示なども行いました。



さくらんぼ教室(早期教育相談)からこんにちは!!



今年度、さくらんぼ教室には18名の幼児さんが保護者の方と通っています。

子どもたちがこれまで教室の中で作成したブロックやひも通しの作品、絵などを、本校玄関の掲示ブースにて写真で紹介しております。



題して「さくらんぼ教室 作品展」!

